



☆重要な記事を集めて紹介し、短い感想、コメントを付します。出所の URL を明記します。

安倍晋三の反知性主義—客観性・実証性を無視，学問の意義を無視

＜「アメリカの軍艦を守らなくていいのか？」—それは現実的な問題なのか？＞

法律は立法の実態があって、作られるもの。しかし、安倍首相は、アメリカの軍艦を守らなくていいのか、など、軍事的危機・衝突が今にも起きるかのようにあおって、戦争法案を強行している。「アメリカの軍艦を守らなくていいのか」という時、それを聞く人が北朝鮮のことを思い起こし、不安に思うだろうことを十分に計算している。本当にそうだろうか？アメリカの軍艦が攻撃されるので、それを自衛隊の艦船が守るってどういう場合なのか？そういう事が現実におこりうる状況なのか？私たちも、安倍首相の言うことがどうも怪しい、荒唐無稽に思える、けれどいざ反論するとなると、戸惑ってしまう。そういう場合、専門的に研究し追求してきた人の論考はとても参考になる。北朝鮮のことについては、半田滋氏が次のように冷静に分析している。

「米軍のような巨大な軍隊はテロやゲリラといった非対称戦には弱いことが証明された。朝鮮半島の戦いは違う。正規軍同士の戦いとなれば、予算、人員、装備に優れた米軍が鮮やかに勝利するのは火を見るより明らかだ。自滅につながる戦争に突入するほど、かの国の指導者は命知らずとは思えないのである。」「確かに核開発、弾道ミサイルの開発を進めているが、いずれもイラクやアフガニスタンのように米国から攻撃されないための自衛手段であり、米国に対話を迫る政治的道具である。」(半田滋『日本は戦争をするのか—集団的自衛隊と自衛隊』(岩波新書、2014.5.20) p.53)

半田滋氏は、東京新聞編集委員、新聞一面トップで戦争法制の特集記事を手がけている。防衛研究所特別課程修了、安保／自衛隊問題報道の第一人者。『日本は戦争をするのか—集団的自衛隊と自衛隊』は第二次の安保法制懇の報告書(2014.5.15)に符節を合わせて出版され、現在議論に上がっている問題の全てを具体的状況と歴史的な背景を踏まえていねいに説いている。お勧めの一冊。

＜なぜ学者が立ち上がっているのか—学問を守るため＞

6月24日(水)午後3時から、参議院議員会館の会議室で「安保法案反対研究団体アピール記者会見」があり、その手伝いに行った。研究団体は14団体、記者会見には5団体に参加した*1。記者会見後に引き続き、院内集会在持たれ、超党派の議員が参加する「立憲フォーラム」の事務局長江崎孝参議院議員(民主党)、「安全保障関連法案に反対する学者の会」発起人の一人である廣渡清吾氏も発言した*2。

*1 <http://blogs.yahoo.co.jp/constimasahikos/33564185.html> に記者会見、院内集会、国会包囲行動について毎日の記者が詳しく書いている。

*2 小沢隆一氏(民科法律部会、憲法学者)の発言も含めて <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/250450> で視聴することができる。

廣渡清吾氏は、専修大学教授 法学／日本学術会議前会長。その発言に感銘したので、以下に紹介する。氏の発言は、安倍晋三がなぜ非現実的な軍事的衝突の事例にこだわっているのか、その背景の思考回路・方法についてすどく示唆している。



廣渡清吾氏

なぜ学者が立ち上がっているのか。それはもちろん安保関連法制が憲法違反で、日本の社会を「戦争ができる国」に駆り立てようとしている、そこに根本があるのですけれど、この過程のなかで、いまはやりの言葉で言うと、反知性主義ですよ。

安倍晋三の反知性主義というのはかなりマスコミで——頭が悪いというのではないのですけれど——反知性主義というのは、これは佐藤優さんの定義によると、客観性や実証性を無視ないし軽視し



戦争法案 廃案ニュース



て自分の思い通りに世界を描いている、自が好きなように世界を開いている。だから、あなたが何を言っても、私が理解している世界はこうですよ、と安倍さんはいつも言い返しているわけです。世界は危機です、このまま放っておくと日本は大変です、という自分の世界理解をただ示しているだけです。だから反論できないけれども、頓着しない。これが反知性主義なのですが、そういう反知性主義は社会における学問の意義を無視する。客観性、実証性というのが学問の本質です。客観性、実証性を無視するという政治の態度は、社会における学問の意義を無視することになる。社会の中で学問が無視されたらどうなるか。これは、先ほどの記者会見*のときにも政治学者の山口二郎さんがいみじくも言ったのですけれど、天皇機関説は当時通説でした。これが攻撃によって天皇機関説を唱えている学者はすべて沈黙をせざるをえなくなりました。その後10年後に何が起こったか。敗戦です。つまり学問が否定され、学者が言いたいことが言えない、という社会は当然民主主義が否定され、平和が脅かされる、戦争に向かう国家社会になる、ということですので、まさに今の状況は、非常に危ない状況がある。

※立憲デモクラシーの会の記者会見 <http://constitutionaldemocracyjapan.tumblr.com/>

安倍首相が自分の世界を思い通りに描いて、現実の世界ではなく、安倍首相の頭の中にある“仮想の世界”を基準にしてモノを言っている、という指摘に納得。しかし、だから論理的に追い詰められても平然としておられるし、論理が通用しないからこそいっそう手強い相手である、と認識しなければならない、と思う。

<客観性・実証性を無視した政治、民主主義否定—いま正に起きている>

廣渡氏の発言のなかで「客観性・実証性を無視した政治」が学問・学者を攻撃・弾圧し、民主主義を否定する・・・という指摘は、いま正に現実問題として起きている。自民党若手議員の集まり（6月25日）で、安倍首相の側近の若手議員や作家百田尚樹らが「マスコミを懲らしめる」「沖縄の2紙をつぶせ」などと言論弾圧をあおる暴言をはいた事が報道されている。友人は、大変なことが起きている、とわざわざ電話をかけてきて、怒りを露わにした。安倍首相は“われ関せず”の姿勢。

私たちが、戦争勢力に対抗するには、一人ひとりの声が集まった世論の力—それは理性の力でもあるし、世代を超えた連帯と共同の力でもある—によって戦争勢力を包囲し、考えられるあらゆる方法で戦争勢力を身動きできないようにしていくことである。そのために私自身もできるだけ集会に参加しようと思っている。

「安全保障関連法案に反対する学者の会」の署名が、現在、学者・研究者7,341人（29日午前9時現在）、市民賛同者が11,696人（同）集まっている。同会は「100人記者会見」を、7月20日（祝）午後5時から学士会館で行う予定、また学生のグループ SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）と共同して集会・デモを行うことも予定。また、外国人記者クラブにおける海外発信の記者会見も予定している。<http://anti-security-related-bill.jp/>でWeb署名ができます。

.....

[Facebook] 安保法制懇・葛西氏「戦争でも起きてくれないことには、日本経済も立ちゆかなくなる」<https://shanti-phula.net/ja/social/blog/?p=69611>

「そろそろどこかで戦争でも起きてくれないことには、日本経済も立ちゆかなくなってきましたなあ。さすがに日本の国土でどんばちやられたのではたまらないから、私はインドあたりで戦争が起きてくれれば、我が国としては一番有り難い展開になると思ってますよ。」ここまでえげつない戦争待望論には、周囲にいた人達もちょっとびっくりしたらしく・・・」もう10年以上昔の話。——「安保法制懇のメンバーの葛西氏の通訳をされていた方の証言で、政財界の人達が集まる食事会で、このような発言をしていたようです。コメント欄からは、覚悟と勇気をもって投稿していることが伝わってきます」と上記 URL の編集者がコメントしています。限られた範囲の人に送ったのに、ある人が公開し、本人も腹を決めて公開した様子がわかります。ぜひ見て下さい。【W氏からの情報提供】